

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2191200019 | | |
| 法人名 | 有限会社 百々 | | |
| 事業所名 | グループホーム百々 美濃加茂(ユニット1) | | |
| 所在地 | 美濃加茂市加茂野町今泉605番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年4月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191200019-00&PrefCd=21&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年3月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、近くには小学校もあり子供の声も聞こえ、四季の風景が楽しめるとても贅沢な環境にあり、どなたでも気軽に立ち寄って頂ける様なホームにしています。
入居者の方はもちろん、家族の方ともコミュニケーションを図り、大家族を目指して、皆で試行錯誤で頑張っています。毎月の外食、年に一度の一泊旅行も実施予定です。旅行先での入居者さんの最高の笑顔に出会える事を楽しみにしています。利用者さんとスタッフ、共に泣いたり笑ったり支え合い、そして寄り添い、一日の終わりに、今日も楽しかったと感じて頂ける様スタッフ一丸となり頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設一年であるが、自治会に加入し、地域の仲間入りを果たしている。自治会の総会や例会に出席し、グループホームの役割を説明し、理解と協力関係を築いている。地元の保育園や小学校等へも直接出向き、相互交流の意義を確認し合っている。前庭には、本格的な家庭菜園があり、ボランティアが野菜の栽培を手伝い、みんなで収穫を楽しんでいる。年に一度は、一泊旅行へ出かけ、利用者の生きる張り合いと潤いのある暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票(ユニット1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づき、常に思いやりの気持ちを持ち、笑顔を決やさない様に支援している。お一人お一人の思いを受け止め傾聴し、心安らぐ毎日を送って頂ける様取り組んでいる。 | 理念は「家庭的な雰囲気、心安らぐ毎日」をとし、目につくところに掲示し、ミーティングで確認し合っている。地域の人達と日々交流をしながら、穏やかに、当たり前な暮らしを支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩時近隣の方にお会いした時は、明るく挨拶をする様心掛けている。 散歩中に、近所のお店にお買い物に行くことも行っている。 | 自治会員として、各種会合に出席し、地域の盆踊りや祭りには積極的に参加をしている。通学児童を見守る子供110番を設置している。近所の商店で買い物をして、つきあいを深めている。 | 事業所の行事へ、地域の人達を招き、交流の輪がさらに広がるように期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の相談、介護保険サービスの説明を行っている。 気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 情報交換で、改善課題等を明確にし、役所の方、役員の方々の意見を参考にし向上に努めている。 | 会議は隔月に行い、地域住民、行政や家族、利用者が参加をしている。事業所の取り組みやヒヤリハット事例等を報告し、意見交換をしている。徘徊対策や感染症予防を検討し、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 報告書など、聞きたい時に市町村の意見を頂きに行く。ネットワーク会議への出席で定期的な連携はとれていると思います。 | 市の窓口に出向き、事業所の取り組みを伝えている。地域の福祉課題でも積極的なコミュニケーションを図っている。市主催のネットワーク会議へ出席して、情報を交換し、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | オープン当初、玄関の施錠はしていませんでしたが、行方不明事故が発生し、ご家族からの強い要望で日中は外側からも解除可能な施錠のみしています。(市役所にも報告済み) | 身体拘束の具体的な事例を出し合い、全職員で共有をし、拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠は、深刻な事故の経験を踏まえ、鍵の装置を改修し、家族と合意をしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については、勉強会を定期的に行い、理解、意識を深めたい。 ホーム内では言葉使いも虐待につながることに重点を置き、職員全員で責任ある言動に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 権利擁護に関する勉強会に出席する機会もないので、今後は積極的に時間を作り、知識の向上に努め活用出来る様に支援して行きたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約などの際には主に管理者が説明を行い、理解・納得いただいてから同意を得ている。契約後も不安や疑問点、要望などには説明、柔軟な対応に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者、家族との距離を置かず、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。事業所の相談・苦情窓口や第三者機関の相談・苦情窓口を紹介している。 | 家族の訪問時やサービス担当者会議、電話等で、意見や要望を聴いている。「職員の名前がわからない」「他人の衣類が混じっていた」等の意見があり、玄関に職員の顔写真を掲示するなど、早急に対処をしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 施設運営に関する職員の意見を日常的に聞き取っている。又、月一度のミーティングの際には、意見や提案等、各階スタッフで話し合っている。 | 管理者は、職員の意見や提案を、日常の場面で聴いている。外出内容や場所の提案、研修会への参加、勤務形態調整等の意見を受け、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休日にも配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 専門的な知識を深めるために、順次研修に参加している。また、内容や学びを報告し、職員間での共有を図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 美濃加茂市サービスネットワーク会議に出席し交流を図ったり、研修をとおしてのネットワークづくりに努め、職員同士の意見交換や人的交流をし、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には、現在生活の場に出向くか、ホームに来て頂くか、必ず本人に会い、心身状態を見て、思いや不安を傾聴することにより、安心感を持って頂き、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が困っている事は何か、何を求めてみえるのか傾聴すると共に、施設を実際に見て頂くことにより、安心し、又納得して頂ける様努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族と相談のうえ、サービス開始の時期を調整している。また、本人とご家族のお話をしっかりと聞き、最優先する支援を見極める様に努めている。本人、家族の思いや不安を受け止め、柔軟な対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と職員は、共に学び、支え合う関係作りに努めている。今後も個々の利用者への関わりを深め、支え合う関係作りに取り組みたい。時にスタッフは、黒子に徹する様にもしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には、日頃のホームでの様子を報告している。又、変化があった場合は電話で報告し、御家族には現状を理解して頂き、職員と共に利用者を支える支援に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 気軽に来て頂けることを大切にしており、昔の同僚や近隣の方、友人の訪問が継続出来る様に支援している。面会時には、一緒に食事をしてもらう事もある。 | 友人や知人の訪問時には、一緒に食事をする等、温かくもてなし、次回の訪問につなげている。盆、正月には、家族や親戚と過ごす等、家族の協力を得ながら関係の継続を支えている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 良好な関係が築け、会話が楽しめる様なテーブルの配置や、その場の雰囲気、さりげなくスタッフが会話に入る等し、入居者全員が穏やかに過ごせる様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | まだ、終了者はいませんが、サービスが終了しても、面会に行ったり、家族から電話連絡があったりした場合は、出来る範囲の関係維持に努めていく。契約終了の際には、いつでも相談に乗りますと伝えていく。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いの把握に努め、出来るだけ柔軟に取り組んでいる。本人の意向を把握するのが困難なケースでは、日々の生活の中で、ご本人が発せられた言葉の把握に努めている。 | 日々の生活の中で、一人ひとりと向き合っ、思いを丁寧に聴いている。「一人でのんびり風呂に入りたい」「家に帰りたい」等の気持ちを尊重し、暮らしやすいサービスに反映させている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 主に計画作成の段階で、本人・家族より生活歴を聞き取り、アセスメント作成している。これまでの生活を生かせる計画を基として利用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居後も継続的にアセスメントをし、心身状態を総合的に把握出来る様努めている。又一日の過ごし方も毎日記録し、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者、家族の意向や希望、今出来る機能を維持する為の課題、職員からの気付きや意見を取り入れ、介護計画を作成しており、毎月職員会議で議題にあげ、計画の見直しに取り組んでいる。 | 利用者、家族、関係者が出席して、サービス担当者会議を行っている。医療関係者からの情報も反映し、「利用者の自分らしい暮らし」の為の介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者ごとの介護記録にケアプランを載せており、いつでも見れる様になっている。円滑に介護が行える様報告、申し送り、連絡ノート等で実施している。ケアを実施した結果は毎月の会議の場で話し合い見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所の出来る範囲で、柔軟な対応に取り組んでいる。問題発生時には、素早く対応し、その時必要な支援をしている。買い物、美容室、目的のある外出等。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアによるイベント以外に、町内のイベントにも参加していきたい。利用者と一緒に消防、消火、救急救命訓練に取り組んだり、地域資源との協働に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前に、かかりつけ医や希望する医療機関などの確認をする。今現在は、月1度の往診で、約半数の方が診てもらっている。緊急でかかる場合の病院の確認も、本人、家族の希望を聞いている。 | それまでのかかりつけ医から協力医への変更は、自由に選択をしている。緊急時は、家族とかがかりつけ医が話し合い、適切に対応をしている。歯科は、事業所の向かいにあるので、職員が同行支援をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃より利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、必要な処置、アドバイス等受けており、医療との連携にも繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時に、その時の病状、今後の治療などの説明を受け、常に情報交換している。また退院後スムーズに受け入れ出来る様、情報提供書や看護サマリーなどの提供を受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の状態変化に伴い、本人、家族の意向を確認しながら、主治医からの説明を受ける機会を設けている。又ホームでの可能、不可能を明確にし、家族と職員と話し合い、方針を固めている。 | 早目の段階で、重度化に向けて、関係者で話し合っている。延命治療等については、かかりつけ医の意見を聴き、本人にとって最良の選択ができるように、支援体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命講習会をホームにて実施した事はあるが、定期的に行えていないのが現状で、全ての職員が実践力が身に付いてはいない。地区で防災訓練を行っており、職員も参加していく。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防署の協力を得て、通報訓練、避難訓練、消火訓練を行っている。今後は夜間帯の迅速な対応を課題とし、実施していく。地域との協力体制は築けておらず、早急に取り組みたい課題である。 | 地域の防災訓練に、利用者と共に参加をしている。事業所内に、水、食料、排泄用品などの備蓄をしている。さらに、今後の課題解決に向けて検討をしている。 | 風水害や地震対策等について、マニュアルを整備し、地域との協力体制づくりや夜間を想定した自主訓練に期待をしたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人情報の取り扱いには最大の注意を払って仕事に従事している。その方の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けや対応に努めている。 | 居室に入る際は、プライバシーを損ねないように配慮をし、個々の習慣や価値観を尊重している。職員同士の私語を慎み、利用者との会話を多く持つように努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活のいろいろな場面において、さりげない会話の中で表情、反応など観察し、本人の気持ちや希望を聞き出す努力をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペース、その日の体調に合わせたケアに努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人、家族の希望に沿った理容、美容に努めている。洋服は本人に選んで頂ける方は、選んで頂いています。日々の生活の中でも身だしなみには気配りしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作り、食器洗浄やお盆拭きなど、片づけにおいても役割を持ち、利用者同士が協力して取り組む場となっている。日々の会話の中で食べたい物を聞き、食事に取り入れている。 | 食事の準備や片付け等、職員と一緒に行き、味見も利用者が行っている。皆が同じものを食し、自分たちで作った味の評価等、会話が弾み、楽しい食事時間を共有している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量を個人記録に記入することで、必要量が確保出来ているか把握出来る様にしている。毎日摂取量の把握の他、毎月の体重管理を行い、栄養状態を見る目安としている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科受診については、近くのかかりつけ医と連携を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄、排泄動作の維持、一人ひとりに合わせた支援を行っている。 | 個々の状態に合わせて促し、職員の誘導によりトイレでの排泄が自立できている。おむつやパッドの使用料が減り、夜間もトイレでの排泄を習慣にしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄パターンを把握する為に、排泄記録をとっている。便秘の予防の為、食材を考慮し、野菜繊維質、乳酸菌等多く摂る様にしている。内服が必要な方には、日中に排便習慣がもてるように、内服時間を考慮し取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 気分や体調による変更柔軟に対応している。入浴は安全に十分気を配り、気持ち良く入って頂ける様に取り組んでいる。 | 一日置きの入浴を基本とし、希望があれば毎日でも可能である。一人でのんびり入りたい人は、外で見守る等、個々の思いを尊重し、ゆったりと楽しく入浴ができるように支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の状態や生活リズムに合わせて支援を行っている。布団干し、シーツ交換を頻繁に行い、心地良く眠って頂ける様に心掛けている。真夏、真冬の居室の温度は特に気を付けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人記録のファイルケースに、服用している薬の名前と用法・効用・副作用などが一目で分かるように貼りつけてある。薬の飲み忘れや誤薬がないよう確認の上、職員が必ず内服確認をしている。薬変更時は支援経過に記入している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方の能力を生かし、活力や喜びにつなげるよう共同作業参加への促し、特技を生かしたレクの提供等の支援。本人、家族から得意な事をお聞きし、日々楽しめる事をやって過ごして頂ける様に心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出、散歩する利用者が固定化しないように出かけている。毎月の外出、年1度の一泊旅行、地域イベントへの参加。ホーム内の生活に留まらないように取り組んでいる。 | 事業所の周辺を散歩をし、途中、馴染みの店へも立ち寄っている。定期的に外出、バラ園、花火見物、一泊旅行等、家族の協力も得ながら、戸外に出かけるように支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己においてお金は所持しないようにお願いしている。買い物時入居者に選んでもらうが、支払いは職員がしている。旅行時可能な方は職員見守りの中買い物し支払い出来ると良いと考えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人、家族の状況、希望に応じて対応している。電話したいと希望された時にはしてもらい、かかって来た時には静かな所でゆっくり話してもらえる様に努めている。手紙が来た時はご本人様に渡している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を取り入れた手作りのカレンダーを飾り、季節に応じ、飾付をしている。畑には季節の野菜を栽培、自然の採光と風通しがよく、フロアーは椅子以外にソファを配置し、くつろげる空間を作っている。 | 共用の間の菜園越しに、通園バスの乗り場があり、園児の行き交う姿が見えている。要所に、雛祭りの飾りや季節の花を飾っている。畳のコーナーでは、洗濯たたみをする等、温もりのある空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間のテーブルは全員の顔が見れる様丸く配置してある。一人になりたい方は自室で過ごして頂く様にしている。それぞれがくつろぎ易いよう配慮している。職員や入居者同士が過ごせる工夫を行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込みの制限はしておらず、逆に出来るだけ本人の大切な物、馴染みの物を持って来て頂けるように説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。 | 備え付けの衣装かけは、使いやすい高さに調節してある。使い慣れた椅子や時計、家族の写真、手づくり作品等の配置を工夫し、落ち着ける居室づくりをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 今ある機能を維持出来る様介助し過ぎず適切なサポートに努めている。歩行場所には障害物をなくし、転倒防止に努めている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2191200019 | | |
| 法人名 | 有限会社 百々 | | |
| 事業所名 | グループホーム百々 美濃加茂(ユニット2) | | |
| 所在地 | 美濃加茂市加茂野町今泉605番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成26年3月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づき、常に思いやりの気持ちを持ち、笑顔を決やさない様に支援している。お一人お一人の思いを受け止め傾聴し、心安らぐ毎日を送って頂ける様取り組んでいる。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩時近隣の方にお会いした時は、明るく挨拶をする様心掛けている。 散歩中に、近所のお店にお買い物に行くことも行っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の相談、介護保険サービスの説明を行っている。 気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 情報交換で、改善課題等を明確にし、役所の方、役員の方々の意見を参考にし向上に努めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 報告書など、聞きたい時に市町村の意見を頂きに行く。ネットワーク会議への出席で定期的な連携はとれていると思います。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 1階にはいつでも行けるようになっているので、一人で1階に行かれる方には、スタッフ同士連携し、誰か一人寄り添い同行する。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待については、勉強会を定期的に行い、理解、意識を深めたい。 ホーム内では言葉使いも虐待につながることに重点を置き、職員全員で責任ある言動に取り組んでいる。 | | |

岐阜県 グループホーム百々 美濃加茂

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する勉強会に出席する機会もないので、今後は積極的に時間を作り、知識の向上に努め活用出来る様に支援して行きたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約などの際には主に管理者が説明を行い、理解・納得いただいてから同意を得ている。契約後も不安や疑問点、要望などには説明、柔軟な対応に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者、家族との距離を置かず、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。事業所の相談・苦情窓口や第三者機関の相談・苦情窓口を紹介している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 施設運営に関する職員の意見を日常的に聞き取っている。又、月一度のミーティングの際には、意見や提案等、各階スタッフで話し合っている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休日にも配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 専門的な知識を深めるために、順次研修に参加している。また、内容や学びを報告し、職員間での共有を図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 美濃加茂市サービスネットワーク会議に出席し交流を図ったり、研修をとおしてのネットワークづくりに努め、職員同士の意見交換や人的交流をし、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には、現在生活の場に出向くか、ホームに来て頂くか、必ず本人に会い、心身状態を見て、思いや不安を傾聴することにより、安心感を持って頂き、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が困っている事は何か、何を求めてみえるのか傾聴すると共に、施設を実際に見て頂くことにより、安心し、又納得して頂ける様努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族と相談のうえ、サービス開始の時期を調整している。また、本人とご家族のお話をしっかりと聞き、最優先する支援を見極める様に努めている。本人、家族の思いや不安を受け止め、柔軟な対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と職員は、共に学び、支え合う関係作りに努めている。今後も個々の利用者への関わりを深め、支え合う関係作りに取り組みたい。時にスタッフは、黒子に徹する様にもしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には、日頃のホームでの様子を報告している。又、変化があった場合は電話で報告し、御家族には現状を理解して頂き、職員と共に利用者を支える支援に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 気軽に来て頂けることを大切にしており、昔の同僚や近隣の方、友人の訪問が継続出来る様に支援している。面会時には、一緒に食事をしてもらう事もある。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 良好な関係が築け、会話が楽しめる様なテーブルの配置や、その場の雰囲気、さりげなくスタッフが会話に入る等し、入居者全員が穏やかに過ごせる様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | まだ、終了者はいませんが、サービスが終了しても、面会に行ったり、家族から電話連絡があったりした場合は、出来る範囲の関係維持に努めていく。契約終了の際には、いつでも相談に乗りますと伝えていく。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いの把握に努め、出来るだけ柔軟に取り組んでいる。本人の意向を把握するのが困難なケースでは、日々の生活の中で、ご本人が発せられた言葉の把握に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 主に計画作成の段階で、本人・家族より生活歴を聞き取り、アセスメント作成している。これまでの生活を生かせる計画を基として利用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居後も継続的にアセスメントをし、心身状態を総合的に把握出来る様努めている。又一日の過ごし方も毎日記録し、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者、家族の意向や希望、今出来る機能を維持する為の課題、職員からの気付きや意見を取り入れ、介護計画を作成しており、毎月職員会議で議題にあげ、計画の見直しに取り組んでいる。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者ごとの介護記録にケアプランを載せており、いつでも見れる様になっている。円滑に介護が行える様報告、申し送り、連絡ノート等で実施している。ケアを実施した結果は毎月の会議の場で話し合い見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所の出来る範囲で、柔軟な対応に取り組んでいる。問題発生時には、素早く対応し、その時必要な支援をしている。買い物、美容室、目的のある外出等。 | | |

岐阜県 グループホーム百々 美濃加茂

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアによるイベント以外に、町内のイベントにも参加していきたい。利用者と一緒に消防、消火、救急救命訓練に取り組んだり、地域資源との協働に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前に、かかりつけ医や希望する医療機関などの確認をする。今現在は、月1度の往診で、約半数の方が診てもらっている。緊急でかかる場合の病院の確認も、本人、家族の希望を聞いている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が在籍しており、介護職との情報交換や日頃より利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、必要な処置、アドバイス等受けており、医療との連携にも繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時に、その時の病状、今後の治療等などの説明を受け、常に情報交換している。また退院後スムーズに受け入れ出来る様、情報提供書や看護サマリーなどの提供を受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の状態変化に伴い、本人、家族の意向を確認しながら、主治医からの説明を受ける機会を設けている。又ホームでの可能、不可能を明確にし、家族と職員と話し合い、方針を固めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命講習会をホームにて実施した事はあるが、定期的に行っていないのが現状で、全ての職員が実践力が身に付いてはいない。地区で防災訓練を行っており、職員も参加していく。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防署の協力を得て、通報訓練、避難訓練、消火訓練を行っている。今後は夜間帯の迅速な対応を課題とし、実施していく。地域との協力体制は築けておらず、早急に取り組みたい課題である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人情報の取り扱いには最大の注意を払って仕事に従事している。その方の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声掛けや対応に努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 生活のいろいろな場面において、さりげない会話の中で表情、反応など観察し、本人の気持ちや希望を聞き出す努力をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペース、その日の体調に合わせたケアに努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人、家族の希望に沿った理容、美容に努めている。洋服は本人に選んで頂ける方は、選んで頂いています。日々の生活の中でも身だしなみには気配りしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作り、食器洗浄やお盆拭きなど、片づけにおいても役割を持ち、利用者同士が協力して取り組む場となっている。日々の会話の中で食べたい物を聞き、食事に取り入れている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量を個人記録に記入することで、必要量が確保出来ているか把握出来る様にしている。毎日摂取量の把握の他、毎月の体重管理を行い、栄養状態を見る目安としている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科受診については、近くのかかりつけ医と連携を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ排泄、排泄動作の維持、一人ひとりに合わせた支援を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄パターンを把握する為に、排泄記録をとっている。便秘の予防の為、食材を考慮し、野菜繊維質、乳酸菌等多く摂る様にしている。内服が必要な方には、日中に排便習慣がもてるように、内服時間を考慮し取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 気分や体調による変更に対応している。入浴は安全に十分気を配り、気持ち良く入って頂ける様に取り組んでいる。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の状態や生活リズムに合わせて支援を行っている。布団干し、シーツ交換を頻繁に行い、心地良く眠って頂ける様に心掛けている。真夏、真冬の居室の温度は特に気を付けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人記録のファイルケースに、服用している薬の名前と用法・効用・副作用などが一目で分かるように貼りつけてある。薬の飲み忘れや誤薬がないよう確認の上、職員が必ず内服確認をしている。薬変更時は支援経過に記入している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方の能力を生かし、活力や喜びにつなげるよう共同作業参加への促し、特技を生かしたレクの提供等の支援。本人、家族から得意な事をお聞きし、日々楽しめる事をやって過ごして頂ける様に心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出、散歩する利用者が固定化しないように出かけている。毎月の外食、年1度の一泊旅行、地域イベントへの参加。ホーム内の生活に留まらないように取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己においてお金は所持しないようにお願いしている。買い物時入居者に選んでもらうが、支払いは職員がしている。旅行時可能な方は職員見守りの中買い物し支払い出来ると良いと考えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人、家族の状況、希望に応じて対応している。電話したいと希望された時にはしてもらい、かかって来た時には静かな所でゆっくり話してもらえる様に努めている。手紙が来た時はご本人様に渡している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を取り入れた手作りのカレンダーを飾り、季節に応じ、飾付をしている。畑には季節の野菜を栽培、自然の採光と風通しがよく、フローアは椅子以外にソファを配置し、くつろげる空間を作っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間のテーブルは全員の顔が見れる様丸く配置してある。一人になりたい方は自室で過ごして頂く様にしている。それぞれがくつろぎ易いよう配慮している。、職員や入居者同士が過ごせる工夫を行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 持ち込みの制限はしておらず、逆に出来るだけ本人の大切な物、馴染みの物を持って来て頂けるように説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 今ある機能を維持出来る様介助し過ぎず適切なサポートに努めている。歩行場所には障害物をなくし、転倒防止に努めている。 | | |